

技能を高め、主体的に運動に取り組む生徒の育成

ーメインゲームに生かすドリルゲームやタスクゲームの工夫ー

特別研修員 保健体育 森瀬伸二（中学校教諭）

生徒の課題

- ・ゲームの中で、パスが上手くできない。
- ・ゲームの中で、どこに動けばパスがもらえるか動き方が分からない。

教師の願い

- ・基本的技能を身に付けさせたい。
- ・ゲームに生き生きと取り組み、自分の役割を果たし、達成感を味わってほしい。

手立て①ドリルゲームで基本的技能UP！

ピンポイント

- ・3人1組を作る。
- ・BがAにボールを転がす。
- ・Aは20m先にいるCにパスをする。
- ・Cの約半径3mの範囲にボールが来れば、1点とする。



狙った所に蹴れるようになってきたな

C
↑
B
↓
A

(生徒の感想) ゲームでも狙った所にパスを出せるようになった。

トリカゴドリブル



ボールの操作がだんだんできるようになってきたな。

- ・5～6人で円を作り、鬼を1人入れる。
- ・鬼にボールを取られないように、パスを回しながらコート往復し、パスを出した回数を点数とする。

(生徒の感想) 動きながらパスを出すことに少しずつ慣れてきた。

ドリルゲーム・タスクゲームの工夫

手立て②タスクゲームで動き方を考えよう！

パス8

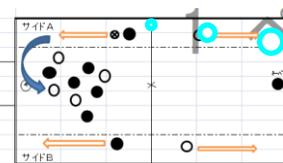
- ・4対4のミニゲームを行う。
- ・4人が対面で並び、全員でパスを回してからゲームを始める。対面パスを出した後は、動いて良いこととする。
- ・タッチラインから出た場合は再度全員パスから始める。
- ・ゴールラインから出た場合は、コーナーキックかゴールキックで始める。



パスをもらえる位置に考えて動こう。

(生徒の感想) 次にどこへパスを出せば良いかが分かるようになった。

サイドフリー



A君にセンタリングを上げよう。

- ・両サイドにフリーゾーンを設定する。
- ・フリーゾーンに入る生徒を「フリーマン」とし、センタリングを上げることを意識させた。
- ・フリーマンがボールをキープしている間は相手チームは奪うことができない。

(生徒の感想) 前だけではなく、サイドまで見て、パスを出す場所を考えるようになった。

成果

狙った所に蹴れた！ゲームが楽しみ！

- 授業の導入やゲームの合間にドリルゲームを継続したことにより、キックやパスなど基本的技能が高まり、球技が苦手な生徒も少しずつ自信を持ち、ゲームに主体的に取り組む姿が見られた。
- タスクゲームを行ったことで、パスをもらう位置を考えたり、サイド攻撃からセンタリングを上げたりする生徒が増えた。メインゲームでも自分から動いてボールを呼び込み、サイド攻撃からシュートにつなげる方法を考えるなど、主体的に取り組む生徒が増えた。

課題

メインゲームに生かすには…

- ドリルゲームの目的を明確にし、メインゲームのどのような場面で生かせるかを考えさせる。
- タスクゲームとメインゲームを交互に行い、サイド攻撃の形を確認したり、メインゲームで様々な動きを試せるようにしたりしていく。